

平成 2 6 年 6 月 1 1 日現在

機関番号： 1 2 1 0 2

研究種目： 挑戦的萌芽研究

研究期間： 2011 ~ 2013

課題番号： 2 3 6 5 2 0 5 9

研究課題名（和文） 1 8 世紀英文学ハイパー辞／事典構築の試み

研究課題名（英文） Trial to Compile a Hyper-Dictionaty for Eighteenth Century English Literature

研究代表者

江藤 秀一（ETO, Hideichi）

筑波大学・人文社会系・教授

研究者番号： 3 0 1 4 9 4 8 9

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,800,000 円、（間接経費） 540,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究は18世紀英文学の作品に登場する今日では見られなくなった事物や風俗習慣に関する語彙に対してウィリアム・ホガースら同時代人の絵画作品を参照し、事物や風俗習慣を図像で示し、より具体的な作品解釈を可能にしようとするものである。さらにそれらの語彙と図像をコンピュータ処理して、相互検索ができるようなハイパー事／辞典の作成を試みることであった。選んだ語彙と図像のマッチングを行っている過程で、図像が必要だとと思われる語句をテキスト中にしるしをつけ、その語句に図像付き解説を当てはめることによってハイパー・テキストができることに思い至り、英文学の2作品のハイパー・テキストが完成した。

研究成果の概要（英文）： This research was conducted to enable us to understand eighteenth-century English literature more clearly by visualizing items, customs and conventions that we cannot see today, with the help of pictures and prints of artists of that period like William Hogarth. In this research a hyper dictionaty/cyclopaedia will be produced by presenting those pictures and words on computer signifying things that are now obsolete, also making cross referencing between pictures and words possible. In the course of matching the selected words to their appropriate pictures, we hit upon the idea that a hypertext could be created by marking words within literary texts and matching them to pictures, along with some explanation. Thus a hyper-text will be completed for two works of English literature.

研究分野： 人文学

科研費の分科・細目： 文学、英米・英語圏文学

キーワード： 18世紀英文学 ハイパー・テキスト

1. 研究開始当初の背景

オリヴァー・ゴールドスミスの喜劇 *She Stoops to Conquer* に次のようなセリフがある。

In my time, the follies of the town crept slowly among us, but now they travel faster than a stage-coach. Its fopperies come down, not only as inside passengers, but in the very basket. (私のころは都会の愚かぶりと言うのはのっそりとはいつくばるようになってきたのだが、今じゃ駅馬車よりも早いわいな。都会のきざさぶりは馬車の中のお客様としてしてばかりでなく、荷物の籠の中に入ってきてくるんだ。)

このセリフの「都会のきざさぶりは馬車の中のお客様としてしてばかりでなく、荷物の籠の中に入ってきてくるんだ」というのは何のことかよくわからない。しかし、ホガースの *The Stage Coach in the Inn Yard* を見ればこの場所の様子が描かれており、この意味もわかる。当時は荷物用の大きな籠が馬車の後ろについており、その籠の中にまで人が乗り込んでいたわけである。そこで、「都会のキザな人間が荷物用の籠に乗ってやってきた」という意味が判明することとなった。

あるいはトバイアス・スモレットの *Roderick Random* の次のような場面でも、何のことかよくわからなかった。

...on the first day of November 1739, sitting upon a packsaddle between two baskets (1739 年 11 月の最初の日、二つの籠の間の荷鞍に座り)

この記述に関しても *Packhorses* という作品にお目にかかるまでは、具体的にどういう状況であるかが明確に把握できなかった。このような英文に出くわすたびに、18 世紀英文学

作品を理解するために具体的な事物の視覚化の必要性を感じていたが、先の *Roderick Random* の場面についての資料が見つかったことにより、この必要性をなお一層強く感じた。

2. 研究の目的

本研究は先の背景を踏まえ、18 世紀英文学を正しく理解するための図像の援用の試みである。作品の解釈は、主にテキストの分析、研究に中心が置かれているが、時の経過とともに、その作品が書かれた時代の事物や風俗習慣が消滅し、テキスト解釈の誤解あるいは理解不能の可能性が出てくる。本研究は18世紀の絵画作品を援用することによって当時の社会や作品に出てくる文物の図版を集積し、文字作品の正確な解釈の助けとする研究である。本研究の最終目標はコンピュータ上で図像の助けを必要とする語句を検索すると関連の図像が画面上に現れることになり『18 世紀英文学ハイパー辞/事典』の構築である。本研究はその可能性を探り、試作品を作成することである。

3. 研究の方法

(1) 本研究は 3 年間の研究である。初年度(平成 23 年度)はイギリス小説からトバイアス・スモレットの作品を、戯曲からはオリヴァー・ゴールドスミスの作品を取り上げ、作品中の事物、および社会状況を示す語を抜き出し、本研究のための用語のリストを作成する。あわせて、主にホガース、ローランドソン、ギルレイを中心とした絵画作品の資料収集を行う。この年はイギリスのロンドンのホガース・ハウス、ケンブリッジのフィッツウィリアム美術館にて資料および情報収集も行う。

(2) 2 年目にはさらに資料収集を行い、収集した資料の分析を行い、先に作成した用語と図像とを比較検討し、マッチングを行う。

(3)最終年度は『18 世紀英文解釈図鑑』の試作をする。最終的にはキーワードをクリックすると関連の映像につながる『18 世紀英文学ハイパー辞/事典』の構築の可能性を探り、その試作品を作成する。

4. 研究成果

(1) 平成 23 年度はリチャード・シェリダンの *School for Scandal* とトバイアス・スモレットの *Roderick Random* をとりあげ、それぞれの作品内に出てくる語句で図版が必要であると思われる語句と事項を抜き出してリストアップした。また、イギリスへ赴き、上記の作品に関連あると思われる 18 世紀の日常生活を描いた絵画作品関連の書籍を収集した。

(2) 平成 24 年度には前年度にリストアップした用語と図版とのマッチングを行い、その用語に関して簡単な解説を加えた。以下はその一例である。

ヴォクソール・ガーデン(Vauxhall Garden)



(London 1753)

(解説)

現在のヴォクソール地区のテムズ川沿いに 1661 年から 1859 年まで存在したロンドンを代表する、社交をねらいとした遊園。ここを会場として音楽会、仮面舞踏会、サーカス、花火大会、気球による空の漫遊なども企画された。(『ロンドン百科事典』大修館、参照)

(3) さらにゴールドスミスの *She Stoops to Conquer* について語句や風物に関する用語

のリストアップを行い、収集した資料に絵画作品とのマッチングを行った。その過程で、(2)で行ったような単なる語句の図像化と解説を施すのではなく、テキストそのものと連携させた形でのハイパーテキスト作成の可能性が出てきた。つまり、作品の英文全体で図像が必要だと思われる語句に色づけをし、それをクリックすれば図像と解説が出るという文学作品のハイパーテキスト化の可能性が見えてきた。結果的にこのハイパーテキストの索引を作成することによって、当初計画の「ハイパー辞/事典」も作成できることになることもわかった。また、相互参照可能のテキストはCD-ROMでも作成可能であることがわかり、*She Stoops to Conquer* と *Roderick Random* のハイパーテキスト版を試作することとなった。

(4) 上記課題を完成させるために、まず、iBooks Author により、これまで収集した画像とデータの落とし込みと、解説文の作成を行い、注の項目を完成させ、テキストデータと資料データを完成させた。次に、Acrobat というソフトを使い、図版の必要な語句をテキストにマーキングし、注の項目とリンク付けを行い、ハイパーテキストの試作品を作成した。また、膨大な画像資料と解説文を制作する過程で、ハイパー辞書の一部を作成した。以下はその一例で、*She Stoops to Conquer* の第 1 幕第 1 場の主人公ハードカースルのセリフである。

HARDCASTLE. Ay, and bring back vanity and affectation to last them the whole year. I wonder why London cannot keep its own fools at home! In my time, the follies of the town crept slowly among us, but now they travel faster than **a stage-coach. Its fopperies come down not only as inside passengers, but in the very basket.**

この太字体の、「そのきざさ（洒落者）」は馬車の中の乗客としてだけではなく、籠そのものの中に乗ってやってくる」というのは何を言っているか不明である。そこで、この部分をクリックすると、次の図像と解説が出てくる。



(Travel in England)

解説

この時代はまだ馬車の時代であり、乗合馬車については重く、ばねはついていなかった。時速は 4 マイルかそれ以下であった。(十八世紀ロンドンの日常生活、p. 164)

そして、このホガースの版画にあるように、乗客は馬車の後ろの物入れ用籠の中にも乗ってきたわけである。こうして、このセリフが具体的に理解できることとなる。

(5)18 世紀英文学作品において、文字情報だけでは具体性に乏しい文物がたびたび出てくるが、それを当時の絵画などの図像と組み合わせることによって具体的なイメージをつかむことができる。これによって、18 世紀英文学の作品解釈の深みを一段と増し、300 年の時を経て解釈不能になっていた作品に新たな光を当てることになり、文学作品の新たな解釈を生み出す可能性がある。またこの研究は、日本の古典文学の研究にも寄与する可能性も有している。例えば、「牛車」という古語が出た際に、『古典文学ハイパーテキスト』のような文献があれば、どのようなものが具体的に分かり、正確な作品の読みに貢献できる。さらには英文学以外の外国の古

典文学の研究にも応用可能な研究成果である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

江藤秀一 18 世紀英文学の視覚化の可能性の研究 『シルフェ』52 号、査読なし、2013、103-112。

〔学会発表〕(計 0 件)

〔その他〕

C D ロム作成

江藤秀一、斎藤信平編 CDR 版テキスト
Oliver Goldsmith, *She Stoops to Conquer*,
Tobias Smollett, *Roderick Random*, 2014。

6. 研究組織

(1)研究代表者

江藤 秀一 (ETO, Hideichi)

筑波大学・人文社会系・教授

研究者番号：30149489

(2)研究分担者

斎藤 信平 (SAITO, Shinpei)

山梨英和大学・人間文化学部・教授

研究者番号：10225708